

第7回JICA-JISNASフォーラムを開催

平成30年12月14日(金) 午後1時30分より、市ヶ谷のJICA研究所にて、第7回JICA-JISNASフォーラム「産官学協働による農林水産分野途上国人材育成について～JICA開発大学院連携における農林水産分野の日本の開発経験とは～」が開催され、大学関係者、JICA職員のみならず、官公庁、民間企業等からも多くの方が参加されました。本フォーラムでは、JICA開発大学院連携参加大学の事例等を基に、途上国留学生に伝えるべき「農林水産分野における日本及びアジアの開発経験」に関する話題提供の後、JICAが策定中である農林水産分野における途上国人材育成計画における6つの優先プログラムの分野ごとに活発な議論が展開されました。(伊藤香純)

SATREPS「キャッサバの侵入病害虫対策に基づく持続的 生産システムの普及と開発」進捗

2016年度に採択され、ベトナム・カンボジア・タイにて展開中である標記のJST/JICA地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)では、対象3カ国においてキャッサバ病害虫管理技術の開発と普及による持続的キャッサバ生産の確立を目指しています。プロジェクトで開発した健全種苗は、2018年度より官民両者での試行生産が行われており、一般的な農家への普及方法を検討する段階に至っています。そこで2018年12月に、ベトナムにおける民間ベースでの種苗生産と販売のメカニズムを検討するため、同国のノンラム大学のカウンターパートであるDr. Nguyen Chau Nienを九州大学・名古屋大学に招聘し、農協を主軸とした流通メカニズムの視察を通じてベトナムで実施可能な普及方法について検討を重ねました。(伊藤香純)

学術雑誌「農学国際協力」Vol.17のご案内

(<https://icrea.agr.nagoya-u.ac.jp/jpn/journal/backnumber.html>)

本号では、京都大学教授の縄田先生に「今後の食料生産と国際農業協力」と題した巻頭言をご執筆頂きました。原著論文、ワーキングペーパー、フィールドレポートでは、アフガニスタン、モザンビーク、ケニア、フィリピン、ベトナムでの実践的な研究成果を掲載しています。国際人材では「学生主体の国際フォーラム」や「国際協力人材の事例研究」を、また報告記事では「産官学協働による人材育成に関するフォーラム」等を紹介しています。是非ご一読を！

(編集幹事 犬飼義明)

オープンセミナー(2018年6月～2019年5月)

回数	日時	テーマ	講師	所属
2018年度 第1回	2018年 9月3日	アフリカの食糧問題解決に向けたイネ研究国際展開～ケニアにおける研究拠点の形成と活用～	榎原 大悟/芦刈 基行 /榎原 均	農学国際教育研究センター/生物機能開発 利用研究センター/大学院生命農学研究科
2018年度 第2回	2018年 12月5日	次世代の農資源利用研究プロジェクト キックオフシンポジウム	江原 宏/野田口理孝 (オーガナイザー)	アジア共創教育研究機構、 農学国際教育研究センター/高等研究院
2018年度 第3回	2018年 12月12日	シミュレーションモデルとリモートセンシング による農業生産性評価	本間 香貴	東北大学大学院農学研究科
2018年度 第4回	2019年 3月12日	気候変動への対応を目指したイネの品種改良 ～フィリピンにおける遺伝資源の潜在能力を解放つ～	ジョナサン・マニト・ ニオネス	フィリピン稲研究所 遺伝資源部門